

## ■「効果の見える治水事業」

### 愛媛県 おおごみ 大込地区災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業 (喜多郡内子町) 『生命・財産を守る土砂災害防止施設』

愛媛県南予地方局大洲土木事務所長 きりやま まさかつ 桐山 正勝



#### ■箇所の概要

当地区(大込地区)は、愛媛県中央部の内子町と砥部町との町境に位置した山間部の集落です。

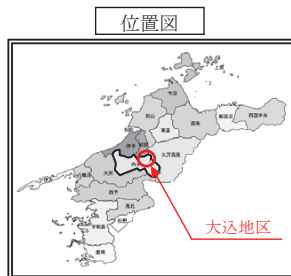
急傾斜地崩壊危険箇所(ランクⅠ)である当該箇所は、平成23年9月20日に来襲した台風15号の影響により、人家背後の斜面が崩壊し、人家1戸が全壊、2戸が一部破損の被害を受けました。被害を受けた家屋等の住民は、地元で指定した近隣の避難場所(集会所)に自主避難をしていたため、幸い人的被害はありませんでした。

#### ■事業の概要

愛媛県では、放置すれば次期降雨等により被害が拡大するおそれがあることから、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業を申請し、斜面崩壊を防止するための吹付法砕工や植生基材吹付工等の早期斜面対策に努め、平成25年8月に完成しました。

今回の災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業では、崩壊が発生した斜面対策のみであるため、地区全体の土砂災害防止対策として、急傾斜地崩壊対策事業も一体で事業化し、平成27年度の完成に向けた整備を進めているところです。

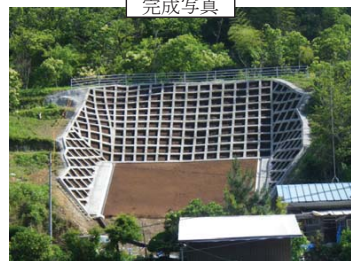
本事業の完成により、地域住民の生命・財産の保全に寄与するものと考えています。



被災写真

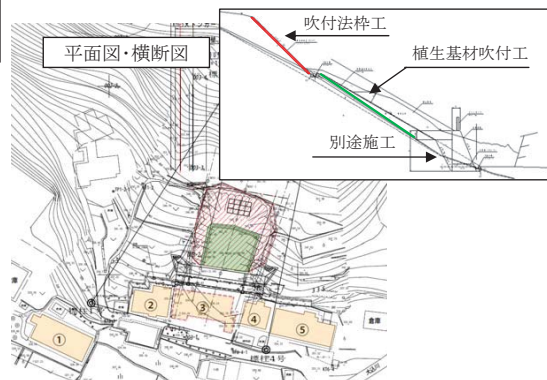


完成写真



#### 【事業概要】

施工位置 愛媛県喜多郡内子町白杵  
事業期間 平成23年度  
事業費 14,600千円  
工事内容 施工延長 L=21.8m  
吹付法砕工 A=328㎡  
植生基材吹付工 A=130㎡



## 「土砂災害から命を守る取り組み」

内子町長 いんこまち 稲本 隆壽



内子町は愛媛県のほぼ中央に位置し、県都松山市から南西約40kmの地点にあります。町土の大半を山林が占める中山間地域で、土砂災害危険箇所も多数存在しています。平成17年1月の合併時の人口は約2万人でしたが、少子高齢化の進行や若年層の流出などによって、現在までに約1割にあたる2千人程度が減少しております。特に土砂災害危険箇所が多い山間集落では、急速に高齢化が進み、限界集落も多数存在していることから、災害時の避難、誘導にも時間や労力を要するなど、大変苦慮する事が考えられます。このため災害から住民の命を守る取り組みが極めて重要な課題となっています。



内子町ではこのような状況から、ハード・ソフトともに防災事業を推進しています。ハード面においては、土砂災害の中でも発生頻度が高い「がけ崩れ」について、従来からの補助事業に加え、町独自で「がけ崩れ防災対策事業費補助金」制度を創設して、補助事業の対象にならない箇所についても、被害の危険性がある箇所は対策を進めています。

また、ソフト面では消防や各自治会の自主防災組織等、関係機関との連携のもと、防災訓練や防災教育を定期的に行い、住民の防災意識の向上や避難態勢の整備強化に努めているところです。

今回、事例紹介された大込地区においては、平成23年9月の台風第15号による集中豪雨で、がけ崩れが発生し、家屋全壊1棟、一部損壊2棟の被害が発生しましたが、幸いにも人的被害はありませんでした。住人は土砂災害に不安を感じ、近所と声を掛け合いながら、災害発生前に自主的に近くの避難場所に避難をしておりました。この的確な判断によって、人的被害が免れたことは大きな教訓です。町民一人一人が防災について考え、避難勧告や指示が出ていなくても、不安や危険を感じたら、地域で声を掛け合いながら、早めに自主的な避難行動がとれる町になって欲しいと考えています。幸い内子町では、各自治会の自主防災組織率が100%となっています。今後も地域の絆による共助によって、災害から命を守る取り組みに努めて頂きたいと考えています。

なお、当大込地区については、被災後、国、県のご尽力により、「災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業」にて緊急対策を実施して頂き、早期に被災者の安全並びに生活再建が確保できた事を厚くお礼申し上げます。また、継続して「急傾斜地崩壊対策事業」にて地区全体の対策を進めていただける事に感謝しております。

内子町におきましても、今後もハード・ソフトの両輪で、官民一体となって土砂災害から命を守る取り組みを進めていきたいと考えておりますので、国、県ご当局におかれましても、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

